

【会員だより】

回顧録

医療法人 佳信会 事務局および検査部 古田哲也(57 回生)

皆様、57 回生の古田と申します。

寄稿にあたり最も苦手とする学術的な話は優秀だった同期の諸君に任せ、はるか昔の京都での思い出をメインに書かせていただきます。

1981 年 4 月、京都放射線技術専門学校、通称“京放専”へ入学しました。現在は京都医療科学大学というりっぱな大学になりましたが当時の京放専は三条御池の島津製作所の一角にあった本当に小さな学校です。そしてこの小さな学校での三年間こそが、現在の自分のキャリアへの第一歩でした。

とは言うものの、あまり真面目に授業に出ていなかったので学校で勉強した記憶は薄いのですが、輸出用の反物を扱う町工場でパンと牛乳を配給され、始業のサイレンと同時に学友の皆と一緒に働いたことや、病院実習の帰りに原付バイクに乗り、方々のお寺や神社を巡ったことは今でもはっきり覚えています。そして国試の前には勉強の合間にはほぼ毎日、太秦の天下一品ラーメンに通い、100%無理と言われていた国家試験を奇跡的にクリアしました。医学書ではなく、あの当時デビューした村上春樹の小説を読み漁り、友とサントリーホワイトを飲みながらいくつもの夜を明かした、忘れることのできない京都での三年間はこうして幕を閉じました。

地元に戻り二転三転したのち、三十年程前より現在の医療法人で事務長と技師の二刀流で働いています。

技師でありながら事務長という立場で働いてみると、人事の難しさやコスト削減など現場目線では見えなかった色々なことを体験でき、自身にとってとてもいい勉強になっています。

今回は学術とはほど遠い、私のつまらない話に長々とお付き合いいただきありがとうございました。最後になりましたが、こうして現在の自分があるのは出石君をはじめ同期入学の皆(入学は同じでしたが卒業は別であった何名かの友も含め WW)、見捨てないで勉強を教えていただいた先生方のおかげであると、大変感謝しております。

あ！それからもうひとつ、難問を解いてくれた六角形のシャープペンシルにも… 完

以上